

# 地域住民のために活動を再開

## NPO法人住民互助福祉団体ささえ愛山元

『地域住民で支える人も支えられる人も、愛をもって共に支え合いたい』という想いから名付けられたNPO法人住民互助福祉団体ささえ愛山元。誰もが心豊かに安心して暮らしていける地域社会を目指し、平成十一年から山元町のふたつの施設で、居宅、訪問介護、通所の介護保険事業と、託老、移送、雑用代行の介護保険事業外事業を行ってきました。

### 二つの施設に大きな被害

三月十一日の大津波では、ふたつの施設は共に大きな被害を受けました。JR常磐線の東側に位置するデイホームと事務所を兼ねた施設は、全壊。施設に当時いた四名のうち、地震直後に車で帰宅しようとしたスタッフ三名は津波にのまれ亡くなりました。代表の中村玲子さんは、事務所横の自宅離れに帰宅直後津波に襲われ、首まで水に浸かりながら十四時間過ごし、ようやく助かりましたが、自宅にいた夫は家ごと流され亡くなりました。

▼ 土台だけを残して流出した、デイホーム



ンをロープ代わりに九人を引き揚げ、施設にあった紙おむつで体を拭いたり、マッサージをして体を温めたおかげで、十二名は一晚二階で過ごし、全員無事に助かりました。

### 助かった命を地域のために尽くしたい

家族やスタッフ、施設など多くを失い、代表の中村さんは氣力をなくして塞ぎ込む日々が続きました。そんな気持ちを少しずつ和らげてくれたのは、全国から寄せられるさまざまな励ましでした。「たくさんの方たちに自分たちは支えられているのだ、改めて気づかされました。十四時間水に浸かり、何度ももうだめか?と心によぎった時、『私にはささえ愛山元がある。死んでいられない』と思ったことを思い出しました。せつかく助かった命。地域のために役立たせなければ」と思いました。

GWを過ぎたところから気持ちもだいぶ前向きになってきて、再開に向けて考え始めました。とはいえずべて流出し、活動再開への課題は山積みです。「前例をいくつか見てきたので、『NPO法人の介護保険事業者は必ず支援をしてもらえはす。待っていていよう』とスタッフに言いましたが、皆はあまり信じてはいませんでした。でも本当にさまざまな支援や助成金などいただき、次の一歩を踏み出せることになりました」



▲ 代表の中村玲子さん

### 再開に向けて始動

現在は亘理町で、県内の障害者支援に取り組んでいるCーしたすけつとやNPO法人麦の会などが立ち上げた『被災地障がい者センターみやぎ』より委託を受け、県南支部の運営を行い、地域障害者への物資搬入などをおこなっています。また、ここを拠点に被災者に少しでも元氣になつてもらえるよう、イベントなどを開催しています。六月には仮設住宅に出向き、パラソル喫茶を開いておしゃべりを楽しんだり、七月には東京の慰問エスチームを受け入れ、県南支部を会場に被災者向けのエスチームを開きました。「参加した被災者の方たちが、震災以来こんな楽しかったのは初めてと言ってくれました。今まで物資の支援ばかりに目を向け

ていましたが、こうしたことが心を元氣にするのだと、改めて知らされました」今後もさまざまなイベントを行う予定です。

五月からはディサービスセンター「ミニホーム愛広館」のリフォームにも着手。十月には再開したいと考えています。山元町では要介護者の四割が亡くなったと言われ、今後の事業運営は決して安泰ではありませんが、気持ちには前向きです。

「震災で失ったものは計り知れませんが、その後に支援をして下さった多くの方たちから本当にたくさんのことを得ました。この縁が今後の私たちの財産になっていくと思います。ゼロからのスタートですが、時間をかけて今まで以上に住民相互でささえあつて行ける地域を作りたいです」

ね」。将来は山元町の森の中で、高齢者のための総合施設を運営したいと考えている中村さん。まずは一歩を踏み出します。

▼ ディサービスセンター「ミニホーム愛広館」



NPO法人  
住民互助福祉団体ささえ愛山元

〒九八九-二二〇一  
宮城県亘理郡山元町山寺字北頭無一二〇一三  
TEL・FAX: 〇二二三-三六八-一〇六